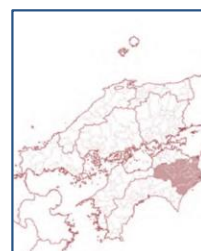
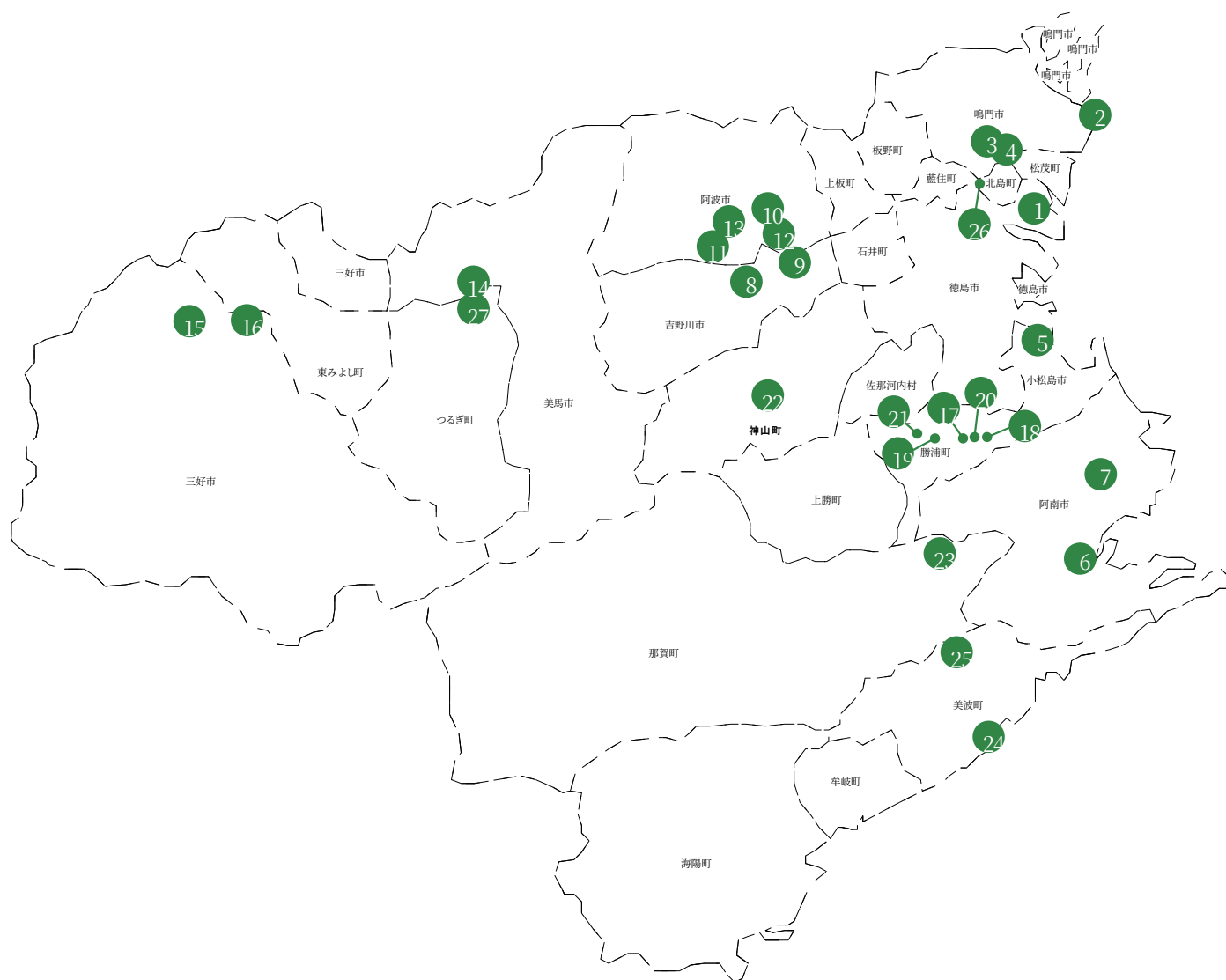


徳島県

ディスカバー農山漁村 むらの宝」第12回選定) 応募団体等 一覧 徳島県)

No	選定 団体等	部門	市町村	団体名/氏名	該当する取組		
①		団体	徳島市	株式会社農家ソムリエーズ	6次産業化	輸出	食育・教育
②	地方 奨励賞	団体	鳴門市	株式会社大塚製薬工場 総務部 社員食堂	地産地消	食育・教育	
③		団体	鳴門市	株式会社本家松浦酒造場	農業	輸出	地産地消
④	地方 奨励賞	団体	鳴門市	JA徳島県徳島北女性部	6次産業化	地産地消	女性の活躍
⑤		団体	小松島市	徳島県立小松島西高等学校 TOKUSHIMA雪花 菜工房	企業との連携	環境保全・農林水 産業・食品産業)	その他
⑥		個人	阿南市	黒川 喜美恵	農業	教育機関との連携	食育・教育
⑦	地方 奨励賞	団体	阿南市	緑のリサイクルソーシャルエコプロジェクトチーム 徳島 県立阿南光高等学校) & 刈草バイオマス工房 みらい	環境保全・景観保全	その他	
⑧		団体	吉野川市	合同会社 川島えがお倶楽部	農業	6次産業化	食育・教育
⑨	地方 奨励賞	団体	吉野川市	徳島県立吉野川高等学校	農業	林業	環境保全・農林水 産業・食品産業)
⑩		団体	阿波市	サロン美緑	農業	伝統の継承	高齢者の活躍
⑪		個人	阿波市	寺井 稔	農業	食育・教育	その他
⑫		団体	阿波市	特定非営利活動法人山の薬剤師たち	農福連携	高齢者の活躍	
⑬		団体	阿波市	野菜ソムリエコミュニティ阿波	地産地消	食育・教育	
⑭		団体	美馬市	こおざとまちづくり協議会	高齢者の活躍	関係人口の創出	その他
⑮		団体	美馬市 三好市 つるぎ町 東みよし町	一般社団法人そらの郷	農泊	農村文化体験	関係人口の創出
⑯	地方 奨励賞	団体	三好市	井川茜保存会 茜の杜」	教育機関との連携	その他	
⑰		団体	勝浦町	生名ロマンの会	環境保全・景観保全		
⑱		団体	勝浦町	特定非営利活動法人 阿波勝浦井戸端塾	伝統の継承	高齢者の活躍	関係人口の創出
⑲		団体	勝浦町	特定非営利活動法人 K-Friends	6次産業化	地産地消	食育・教育
⑳		団体	勝浦町	道の駅ひなの里かつうら再生プロジェクト	農業	農村環境・景観保全	関係人口の創出
㉑	地方 奨励賞	個人	勝浦町 上勝町	石川 美緒	農業	6次産業化	雇用
㉒		団体	神山町	徳島県立城西高等学校神山校 まめのくぼ」プロ ジェクトチーム	6次産業化	荒廃農地対策	農村環境・景観保全
㉓	地方 奨励賞	団体	那賀町	徳島県立那賀高等学校 地域探求同好会	環境保全・景観保全	食育・教育	学生・若者の活躍
㉔		団体	美波町	株式会社四国の右下木の会社	林業	伝統の継承	環境保全・農林水 産業・食品産業)
㉕		団体	美波町	特定非営利活動法人赤松煙火保存会	伝統の継承		
㉖		団体	北島町	はーとふる川内株式会社	6次産業化	教育機関との連携	農福連携
㉗		団体	つるぎ町	家賀再生プロジェクト	農泊	伝統の継承	農村環境・景観保全

応募団体等所在市町村図（徳島県）



かぶしきがいしゃ のうか
株式会社 農家ソムリエーズ
なると金時で世界中の食卓を幸せにします！

概要

- 「なると金時」は徳島県の砂地地域でのみ栽培されるブランドさつまいも。しかし、平成7年には1,330haあった作付面積が21年間で1,120haに減少し、販売単価も下落。このような状況に対し、地域農業の衰退を食い止め、収益向上を図るため、地域単位での産地形成と販売体制の構築を目的に、平成26年に「株式会社農家ソムリエーズ」を設立。
- その後の取組として、なると金時の輸出及び加工品（さつまいもチップス「おさっち。」）の開発・販売を推進し、さらに栽培体験を通じた食育の推進にも力を入れている。



海外プロモーション



輸出用梱包なると金時



おさっち。

〒771-0137 徳島市川内町平石若宮268-3
088-679-8661

関連情報はこちら ▶

地方
奨励賞

かぶしきがいしゃ おおつかせいやくこうじょう そうむぶ しゃいんしょくどう
株式会社大塚製薬工場 総務部 社員食堂

捨てられる「もったいない」を宝に。製薬会社が挑む、徳島発社員食堂の食と健康の循環モデル

概要

- 製薬会社の直営社員食堂として、社員の健康増進に寄与するメニュー開発に取り組む。特に、徳島県産の食材を積極的に取り入れ、栄養素などの健康情報をサイネージ（食堂内の掲示板）で発信。
- ブロッコリーの葉・茎を使用した自家製ドレッシングや、茶殻を使用したふりかけの開発などフードロスの削減に取り組む。
- 食材調達では、生産者への定期的な訪問や意見交換を行い、収穫状況に応じてメニューを柔軟に変更。



サラダバイキングで徳島県産食材を提供

成果

- 社員の「食」への関心が高まり、健康増進につながっている。地産地消の取組により、地域の農林水産業の持続可能性や発展に貢献。
- 規格外品やこれまで廃棄されていた部位を食材として活用し、年間約50kgのフードロスを削減。
- 生産者との直接取引件数は、令和2年度の11件から令和6年度には27件に増加。信頼関係の深化が、より質の高い食材の安定調達と、生産者の経営安定化という好循環を生んでいる。



可能な範囲で生産者を訪問

〒772-8601 鳴門市撫養町立岩字芥原115
088-685-1151

関連情報はこちら ▶



かぶしきがいしゃほんけまつうらしゅぞうじょう

株式会社本家松浦酒造場

人の集う酒蔵「ナルトタイの店」から世界に鳴門の酒を届け、
呑んだ人々が、世界から鳴門に歴史と文化を楽しみに来て貰う！

概 要

- 昭和61年から米国向けに日本酒の輸出し、英国、香港、韓国、シンガポール、豪州、スペインなど14か国に輸出を拡大。
- 平成5年にすだちのリキュールを開発に続き、ゆこう、柚子等の徳島県産の香酸柑橘や梅を使ったりキュール等を開発。
- 情報発信拠点として「ナルトタイの店」（直売所）開設や多言語の動画「鳴門酒蔵街道」をHPやSNSで発信、他の酒蔵や近隣の醤油蔵との連携イベントの開催等を開催。



酒米生産者との交流会

成 果

- 日本酒等の輸出先の増加とリキュール類の輸出により輸出額は増加傾向で推移。
- リキュールは、日本酒を好まない客を取り込み、売上げの45%を占める商品に成長。
- 「ナルトタイの店」への来客数は、令和6年度約4万人（うちインバウンドは10%）と大幅に増加し、直売所の売上は令和2年度の2倍超に増加。



ゆずリキュール

〒0779-0303 鳴門市大麻町池谷字柳の本19番地
088-689-1110

地方
奨励賞とくしまけん とくしまきた じょせいぶ
JA 徳島県徳島北女性部

お母さんたちの手作りれんこん葉茶で美と健康を

概 要

- れんこんの地下茎は食用として利用されているが、葉は収穫前に切られ廃棄されている。葉の有効利用と健康効果がある可能性への期待から、30年ほど前より地域資源を活用した商品開発に取り組み、「れんこん葉茶」として商品化。
- 部員が葉の収穫、乾燥、加工、袋詰めまで全て手作業で行い、れんこん葉茶を製造。
- 市場のニーズを反映した改良や販売促進活動のため、れんこん葉茶を直売所等で販売。



早朝5時かられんこんの葉を収穫

成 果

- れんこん葉茶の製造・販売活動を通じて、地元農家、JA、地域住民の協力する機会が生まれ、地域の活性化につながった。
- また、加工に携わる女性たちは、地域の課題解決やイノベーションの推進者として重要な役割を果たしており、リーダーシップを発揮できる場の創出につながっている。
- れんこん葉茶は鳴門市の「コウノトリおもてなし認証」を取得。認証取得は、地域全体の農産物のブランド向上につながり、他の特産品の販売促進にも寄与。



れんこん葉茶

〒779-0302 鳴門市大麻町大谷字八反田10番地1
088-689-1001 t_yagi@ja-tokushimakita.jp



とくしまけんりつこまつしまにしこうとうがっこう

徳島県立小松島西高等学校

とくしま おから こうぼう
TOKUSHIMA 雪花菜工房

藻場の再生で広がるネットワークとその探究活動について

概 要

- 高校生が主体となり、ステーキホルダーと協働し、未利用魚の活用と藻場再生活動を通じて地域経済と環境の両立を目指す。
- 徳島県南部では近年藻場の減少、磯焼けが深刻化し、漁業資源にも大きな影響が出ており、その原因の一つに食害魚である未利用魚（ブダイ）が挙げられる。この未利用魚を活用した商品の開発に取り組み、その売上を藻場再生に充てる活動を始めた。
- 藻場のCO₂吸収量を可視化・定量化するため、AI搭載の水中ドローンを用いて効率的な海洋調査を実施。



水中ドローンにて藻場モニタリング調査



未利用魚を使った商品の販売



ブダイを使った商品「金のブダイカレー」

〒773-0015 小松島市中田町字原ノ下28-1
0885-32-0129

関連情報はこちら ▶



くろかわ きみえ

黒川 喜美恵

子どもたちの1000時間の充実と、「できる」を増やす子どもの食堂

概 要

- 学区に学童保育がなかったことをきっかけに、子どもたちの放課後や長期休暇の「1000時間」を有意義に過ごす場として学童保育を立ち上げた。その中で、地元食材を活用した調理体験を通じて子どもたちの自立心や協働力を育む「子どもの食堂」を開始。
- 子どもたちが地元の旬の食材を使って調理・配膳・片付けまでを行い、地域の漁師や農家、高専・大学と連携して多様な体験を提供。



子どもたちの調理風景



豆腐作り、漁師さんに習う魚料理



地元食材で子ども達が作った定食

成 果

- 地元の漁師や農家、高専・大学と連携し、魚の三枚おろしや豆腐作りなど、地域資源を活かした多様な体験を提供することで、子どもたちの視野が広がった。
- 活動は地域住民との交流にもつながっている。子どもたちが地域の人々と顔見知りになることで、見守りの輪が広がり、防災面でも安心感が生まれた。
- 「子どもの食堂の」来場者数は令和5年度以降は毎回200人規模に拡大。地域に根差した継続的な活動として定着しつつあり、子どもたちの成長と地域のつながりを育む場となっている。

〒779-1510 阿南市新野町東山56
080-5869-7829 saikai3151@gmail.com

地方
奨励賞

みどり

緑のリサイクルソーシャルエコプロジェクトチーム

とくしまけんりつあなんひかりこうとうがっこう

かりくさ

こうぼう

(徳島県立阿南光高等学校) & 刈草バイオマス工房・みらい

考えよう未来の地球のために私たちができることを！

概 要

- 徳島県立阿南光高等学校と社会人等が組織する「刈草・バイオマス工房みらい」の2つの団体が協同して「緑のリサイクルソーシャルエコプロジェクトチーム」を運営。
- 「花いっぱい運動」を行う中で、河川や道路・公園等の維持管理で発生する刈草が毎年多額の経費をかけて植物廃材として焼却処分され、CO₂を排出していることを知り、刈草を堆肥として再利用することを発案。3年かけて2013年に資源循環型肥料「もったいない2号」を開発し商品化。



成 果

- 「もったいない2号」にアサガオやヒマワリの種を添えた「ミニ緑のカーテンセット」を環境教材として制作。市内や徳島駅前などで配布し環境問題の啓発に取り組んだ。
- 行政と連携しリサイクル施設を事業化、年間刈草16トンから8トンの資源循環型肥料を生産。地域の雇用創出にもつながり、持続可能な取組として全国でも先導的な事例となった。
- 大阪・関西万博会場の樹木の肥料に採用され国際博覧会の開催に貢献(協賛)。



〒774-0045 阿南市宝田町今市中新開10-6
0884-22-1408

ごうどうがいしゃ かわしま

くらぶ

合同会社 川島えがお倶楽部

地域へ笑顔で恩返し

概 要

- 地域の活性化や経済的効果を上げることを目的に、10数年ぶりに「川島ふるさと祭り」を開催。
- 3か月に1度のペースで、こども食堂を開催。子供やその両親並びに地域のお年寄り等に食事の提供やイベントを実施し、笑顔の絶えない楽しいひと時となっている。
- 地元のJR学駅では、入場券の表示が「入学」となることから合格祈願の縁起物として人気を集めていることに着目し、同駅とコラボし、地元産米を商品化した「入学米」の販売を開始。



成 果

- 毎年11月に開催する「川島ふるさと祭り」は、令和5年度には県内外10,000人を超える来場者となり、同市に経済効果をもたらすとともに、交流・関係人口の増加に寄与している。
- こども食堂は、好評を得ており多い時には100名程が参加するなど、世代を超えた交流の場となっている。
- 地元駅とコラボし販売した「入学米」は、人気を博し地域の特産品となった。



〒779-3301 吉野川市川島町桑村619-17
090-2892-5161 kawashima.egao@gmail.com

関連情報はこちら ▶



地方
奨励賞とくしまけんりつよしのがわこうとうがっこう
徳島県立吉野川高等学校

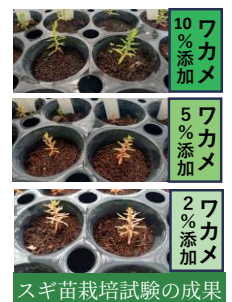
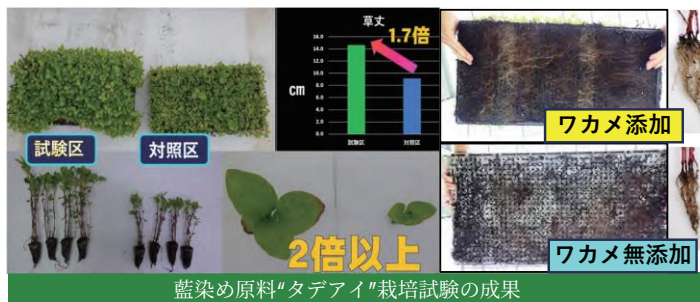
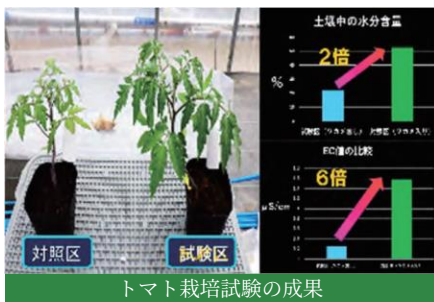
鳴門ワカメ、廃棄から再生へ～地域と環境をつなぐ新資源～

概 要

- 徳島県の特産品である鳴門ワカメの未利用部位を活用し、農業・林業資材「ワカメ資材」を開発し、効果を検証。
- ワカメ資材を牛糞堆肥代替として、トマト、藍の育苗試験を実施。強健な苗が育成されるなど、肥料としての有効性を確認。スギ苗コンテナ栽培では、保水性や根の成長促進効果を確認。
- 近隣の小学校と連携し、ワカメ資材を活用した草花栽培や、地球温暖化などの環境学習に関する出前授業を実施。

成 果

- ワカメ資材を活用することで、育苗会社が培養土に要する生産コストを年間10%削減。地産地消型の培養土開発は、海と山をつなぐ環境に優しい取組として、育苗会社から高評価を得た。また、ワカメ生産者の廃棄処分にかかる費用の削減も期待されている。
- 第1回みどり戦略学生チャレンジ中国四国ブロック優秀賞受賞。ディスカバー農山漁村の宝地方サミットin四国（令和7年3月開催）で事例発表し、活動を広く情報発信。



〒776-0005 吉野川市鴨島町喜来681-9

0883-24-2117 yoshinogawa_hs@mt.tokushima-ec.ed.jp

関連情報はこちら ▶



サロン美緑

安心安全な小麦でつなぐ、伝統食「たらいうどん」

概 要

- 令和3年5月、地域住民のサロン活動に取り組む「サロン美緑」を創設し、地域の名物で伝統食である「たらいうどん」を継承する活動を開始。
- 耕作放棄地の発生を防止するため、休耕田を活用。うどんに使用する小麦は、環境に配慮し、農業・化学肥料を使わない有機栽培で生産。
- たらいうどん作りの技術を継承するため、子ども会、子育てサークル及び老人会等と連携し「うどん打ち体験会」を開催。

成 果

- 休耕田を活用したうどん用小麦の栽培面積は、令和4年度30aから令和7年度は70aへと2倍以上に拡大。
- うどん打ち体験会の参加者は、令和3年度20名から令和6年度は225名と10倍以上に増加。
- 令和7年3月に御所のたらいうどんが文化庁の「100年フード」に認定されるとともに、地元新聞等を通じ活動内容が紹介されたことにより、たらいうどんの認知度が向上。
- 交流・関係人口が増加する等、地域の活性化に寄与。



〒771-1506 阿波市土成町土成南原24

hukku1192jp@yahoo.co.jp

てらい みのる
寺井 稔

農業が、何倍も楽しくなった理由（ワケ）。

概要

- 阿波市の農業後継者グループ「GOTTSO阿波」に平成27年に加入。「野菜の力でまちおこし」を目標に、野菜の出張販売や広報を幅広く行い、自らが「まちのPR隊」として活動。
- 県農業支援センターとも共同で「GOTTSO美～@ナス」を使った幼稚園や小学校での食育の出前授業を行い、野菜のおいしさや作物を育てることの楽しさを伝えている。
- 独自の流通ルートを確立し、単価向上を念頭に置いた商談を行い、市場価格に振り回されない生産・販売の開始。



県農業支援センターと共同食育授業



万博関連イベントでの販売



「阿波市特産品認証制度」ミルフィ～菜の認証式

〒771-1701 阿波市阿波町下喜来南174-7
090-3787-2756 gottsoawa@gmail.com

関連情報はこちら ▶

とくていひえいりかつどうほうじん やま やくざいし
特定非営利活動法人 山の薬剤師たち

長く続けるために

概要

- 担い手不足等による農業の衰退という地域課題に対し、農福連携により解決に取り組んでいる。
- 軽負担でマニュアル管理しやすい高床式砂栽培ハウスを導入し、葉物野菜を栽培。障がい者たちだけで管理する自立型農園をコンセプトに、障がい者の担い手を育成。
- 高齢者施設の入所者向け収穫体験など、レクリエーションや園芸療法として農業に触れ、明るく元気に暮らすきっかけを創出。



ベビーリーフ

成果

- 高床式砂栽培の導入により、幅広い障がい者に活躍の場を提供すると同時に、賃金アップによる障がい者の自立に貢献。また、農家の労働力不足軽減に貢献。
- 農福連携普及活動での交流人口は、67人（令和2年度）から198人（令和6年度）に増加。
- 老舗中華料理店や地域給食センターにチンゲンサイ、レストランやホテルにベビーリーフを提供し、質の高い野菜として好評を得ている。



チンゲンサイ

〒771-1401 阿波市吉野町柿原字原194-1
088-676-3380 tanagokorokoyadairanaruto@gmail.com

やさい あわ
野菜ソムリエコミュニティ阿波
育てよう！阿波ベジキッズ～新たな食育形成に向けて～

概要

- 地域農業や地域福祉の発展を目的に、野菜ソムリエの育成とともに、各種セミナー、講習会などを開催しながら、阿波市産野菜・果物（阿波ベジ）をPR。
- 阿波ベジの魅力を伝えるため、阿波市内の小学生を対象に、『キッズ野菜ソムリエ』を育成し、農業体験、販売体験、料理実習などの食育活動を実施。



キッズ野菜ソムリエ任命イベントの様子

成果

- 平成27年度から実施している「キッズ野菜ソムリエ」育成活動では、毎年50～80人を認定。子供たちが楽しみながら、阿波ベジにふれ、その魅力を理解。
- 農業体験を通じ、子供たちが阿波市の農業の豊かさを実感するとともに、食の大切さを理解し、食べ物への感謝の気持ちを育むことに寄与している。



阿波市産のレタスを使った調理実習の様子

〒771-1695 阿波市市場町切幡字古田201-1
0883-36-8720

きょうぎかい
こおざとまちづくり協議会
自分たちの地域は自分たちで守る

概要

- 「自分たちの地域は自分たちで守る」を合言葉に、地域の住民が主体となり、廃校施設を有効活用し、地域の活性化と安全・安心な環境づくりの活動に取り組んでいる。
- 近隣農家等から提供された地元食材を調理した食事を住民に提供する地域食堂の取組やひなまつりや運動会等、季節ごとにイベントを開催し、地域住民の交流を促進している。
- 廻りおどりや秋祭り等の伝統行事を次世代に継承する取組や自主防災訓練等の安全・安心につながる取組を実施している。



農園における収穫体験と地域食堂の食事風景

成果

- 地域食堂や季節ごとに開催する地域交流イベントは、コロナ禍が終息した令和5年度以降は回復し、地域内外から多数（多い年は700人超）の参加を得ている。
- 様々なイベントの開催を通じ、住民間の交流する機会が増え、地域の困りごと等の情報交換・共有の場になっている。
- 地域外からの参加者も増えており、地域住民との交流を通じ、関係人口の増加に寄与している。



伝統継承イベント（廻りおどり）の様子

〒771-2103 美馬市美馬町字玉振前1番地1
0883-63-2180 Kozato2017@gmail.com

関連情報はこちら ▶





いっぽんしゃだんほうじん

さと

一般社団法人 そらの郷

世界農業遺産を活用した農山村の活性化

概 要

- 世界農業遺産に認定された「にし阿波の傾斜地農耕システム」による伝統農法や急峻な農山村で育まれた食文化や歴史を観光資源として活用し農作業体験や共同調理などを取り入れた体験型教育旅行を実施。
- 体験型教育旅行の受入家庭の掘り起こしとともに、サービス品質向上のために、受入家庭向けの研修を実施。
- インバウンド対応として、急傾斜地の畑の散策や農家の庭先での餅つきなどの地域住民との交流を実施。



野菜の収穫体験（教育旅行）

成 果

- 体験型教育旅行は、令和2年度481人泊から令和6年度6,363人泊と増加。また、にし阿波地域への外国人旅行者の延べ宿泊者数は令和2年3,633人から令和6年30,347人に増加。
- 体験型教育旅行の参加者や外国人を含む観光客の増加により、地域の農業者や観光関連事業者の所得向上、雇用の創出・安定化、移住者の増加といった好循環を生み地域活性化に寄与。



地元農家との交流（餅つき体験）

〒778-0005 三好市池田町シマ995番地1
0883-76-0713

地方
奨励賞

井川茜保存会「茜の杜」

茜でつながる地域の輪

概 要

- 地域に自生している価値のある茜を保存のため、耕作放棄地を畑に復元し、茜栽培に取り組んでいる。一連の栽培・管理作業には会員が参加。
- 多様な素材で多様な色が発色する染め方法を研究し、顧客の要望に応えられる染色技術を備えている。
- 茜染めに親しんでもらうため、地元の小中学生を対象に茜染め体験会を開催、地域の交流施設に茜染め製品を飾るなど、茜を活用した活動に取り組んでいる。



日本茜栽培の工夫 熱射よけ寒冷紗張

成 果

- 茜栽培を通じた会員間の交流は、地域活性化につながった。自生の茜の生育状況から、茜が生育しやすい環境づくりを考察し、試行するなど自然への理解を深めるきっかけとなった。
- 茜染め製品は、JR四国の観光列車で継続して販売され国内外の観光客に好評。「三好市ふるさと納税返礼品」「三好の逸品」や、にし阿波地域の魅力を発信するブランド「千年のかくれんぼ」にも登録され信頼度も高まり、茜染めの認知度の向上につながった。



「藍屋敷おくむら」での展示会



茜染め作品ストール

〒779-4801 三好市井川町辻60-1
090-3184-1023 gsmjap2hlf@gmail.com

いくな かい 生名ロマンの会

ボランティアでつくろう「生名ロマン街道」

概要

- 正木ダムの完成（昭和52年8月）後、生名谷川の改修工事竣工を記念し、生名区老人会らが兩岸に桜を植栽。平成15年に兩岸の管理道路が「ふれあいロマン街道」と命名され公園化されたことに伴い活動を開始。桜の美しさと自然の恵みを活かし、環境保全、地域コミュニケーション、安らぎの名所として地域の維持、活性化に取り組んでいる。
- 「勝浦さくら祭り」は平成16年から開催し、平成23年より舟下りやアマゴの釣り堀などのイベントを追加して規模を拡大。
- 年3回の清掃や草刈り、隔年での桜の剪定などを実施し、環境や景観の保全に取り組んでいる。



生名ロマン街道の桜並木



勝浦さくら祭り（舟下り）



ボランティアによる環境保全活動（年3回）

〒771-4303 勝浦郡勝浦町大字生名字山ノ神
090-8970-6728 kouryu@town.katsuura.i-tokushima.jp

関連情報はこちら ▶



とくていひえいりかつどうほうじん あわかつうらいどばたじゅく 特定非営利活動法人 阿波勝浦井戸端塾

グローバル・地球と結ぶ勝浦づくり

概要

- 昭和56年の寒凍害で基幹産業「貯蔵みかん」が壊滅的な被害を受けたことを契機に、地域の再生と活性化を目指して平成3年に「阿波勝浦井戸端塾」として活動を開始。
- 「地球と結ぶ勝浦づくり」を理念に、平成4年から日本一を誇る「ビッグひな祭り」を開催。家庭で飾られなくなった雛人形を全国から集め、ピラミッド型ひな壇、周辺を含め約500段などに約3万体の雛人形を展示。
- 平成6年には、町内での恐竜化石の発見を機に、「恐竜の里づくり」にも着手し、地域資源を生かした持続可能なまちづくりを推進している。



ビッグひな祭り メインひな壇



恐竜ウォークラリー 恐竜化石の解説



県立博物館 化石調査活動の協力

成果

- 「ビッグひな祭り」は、全国から集めた約3万体の雛人形を供養・展示する日本一の規模を誇るイベントとして定着し、令和6年度には約2万人の来場者を迎え、売上は1,216万円を記録。国際的にもリオ五輪と東京五輪で展示を行い、日本文化の発信に貢献。
- 町内で恐竜の化石が発掘されたことを契機に、「恐竜の里づくり」では、毎年ウォークラリーを開催。平成30年からは、徳島県が行う発掘調査を支援。イベント開催等ではインバウンド誘致等、補助金に頼らない持続可能な運営体制のもと、交流人口の拡大と地域経済の活性化に貢献。

〒771-4303 勝浦郡勝浦町大字生名字月ノ瀬35-1
0885-42-4334 hinanosato.k@gmail.com

とくていひえいりかつどうほうじん けいふれんず
特定非営利活動法人 K-Friends
 スポーツ×食育×恐竜＝農村を紡ぐ

概要

- スポーツ振興による地域活性化を目指し、スポーツと地元特産物の収穫体験をコラボさせたスポーツツーリズム事業等を実施。
- 令和3年から農産物商品加工ができる施設の管理受託をきっかけに、6次産業化へ取り組み、地元の農産物を使った商品を開発し販売。
- スポーツツーリズム、食育・地産地消、SDGs推進、恐竜イベントを柱に、地域の魅力を発信し交流人口の増加と地域活性化を目指している。



みかん収穫体験＆ウォーキングのスポーツツーリズム



熟成みかんジャム



食育教室

成果

- スポーツ振興イベントでの交流人口は、138人（令和2年度）から900人（令和6年度）へ増加。地産地消・食育教室等の参加者は、70人（令和5年度）から100人（令和6年度）へ増加。
- 6次産業商品化の取組は、「まんまいも」「まぜご飯の素」に加えて、規格外の地元の特産品である熟成みかんを使用したジャム等を商品化。商品の売上げは、取組開始初年度（令和3年度）の35万円から430万円（令和6年度）へ増加。

〒771-4307 勝浦郡勝浦町大字三溪字古川1番地1
 0885-42-3671 kfriendskss@gmail.com

関連情報はこちら ▶



みち えき さと さいせい
道の駅ひなの里かつうら再生プロジェクト
 住民が輝く地域再生の拠点づくり

概要

- 行政及び地域住民から、交流人口増加対策や耕作放棄地の景観問題解消の依頼があり、道の駅がハブとなり、808（やおはち）農園プロジェクトを企画。
- 協働体制の構築及び食育に資する体験農園とこども食堂（やおはち食堂）の運営。
- 地域資源のPRと消費拡大のため、808農園やマルシェ、防災フェス等のイベントを開催。また、交流人口拡大に資する観光ひまわり園・コスモス園を整備。

成果

- 約50aの管理不能農地を再生・有効活用し、景観維持を実現。延べ250名超の地域住民・学生・児童が協働し、地域交流とコミュニティ強化に貢献。収穫体験では100名の児童・こども食堂利用者などに農業体験・食育機会を提供。収穫物はフードバンクへ寄贈し、新鮮な農産物を提供することで地域福祉向上にも貢献。
- ひまわり園、コスモス園の整備に加え、夏野菜の無料配布、みちのえきマルシェ、防災フェスタ、恐竜フェスティバルなど、多様な集客イベントを開催。関係人口の獲得を通じ、周辺地域の活性化に貢献。



中学生と保育園児によるコスモス播種



保育園児の収穫を手伝う中学生



やおはち食堂 食事の様子

〒771-4303 勝浦郡勝浦町大字生名字月ノ瀬4-1
 0885-44-0112 hinanosato.k@gmail.com

関連情報はこちら ▶



地方
奨励賞いしかわ み お
石川 美緒

山間の恵みをつかったジェラートで、地域の文化を未来へ紡ぐ

概 要

- 10年前、みかん農家を継ぐために東京から徳島県勝浦町へ夫婦で移住。
- 近年、気候変動の影響による不作のリスクが高まり、不安を抱えながらの農業経営が続いている。こうした課題に向き合いながら、培ってきた農業の経験と、地域に根ざした食材・文化資源を活かした新たな挑戦として、クラフトジェラートブランド「TONPUKU」を立ち上げた。
- 農閑期には古民家を改修した民宿を運営し、田舎暮らしを体験できる場を提供。



自社農作物をつかったジェラート

成 果

- 50aから開始したみかん栽培は、近所の高齢農家からの依頼で農地を借受け、現在では100aを管理。収穫期にはSNS募集を通じて県外から住み込みアルバイトを受け入れ、地域との新たな接点を創出。
- 規格外の柑橘類をジェラートに加工し、通年販売を実施。さらに地域の農産物や山菜等も活用し、地元農家の収益、やる気向上に貢献。
- ジェラートブランドは店舗販売に加え、オンライン販売やイベント出店等を行い販路を拡大。大阪・関西万博では、自治体ブースで出店し、1,550個が完売。地域の魅力を伝える商品として高評価を獲得した。



東京・コミュニティ施設前での出店

〒771-4307 勝浦郡勝浦町三溪林25

関連情報はこちら ▶



とくしまけんりつじょうせいこうとうがっこうかみやまこう

徳島県立城西高等学校神山校

「まめのくぼ」プロジェクトチーム

高校生が挑戦まめのくぼの再生プロジェクト

概 要

- 令和元年、神山創造学(学校設定科目)の授業で約20年間放置され耕作放棄地(通称で「まめのくぼ」という)となっていた棚田を発見。その一部を借り受け、土地の再生と作物の栽培に取り組む。
- 土地の再生には、石積みや伐採技術を活かした環境整備も実施。在来種的小麦(神山小麦)、そば、茶の栽培・加工販売による6次産業化にも取り組む。

成 果

- 令和7年4月時点で約25aの農地を再生。環境整備による農地の機能回復や、鳥獣被害防止の電気柵設置などの活動が認められ、「とくしま生物多様性活動認証」を取得。
- 在来小麦を用いたクッキーの製造、販売を通じて魅力を発信。また、神山校が取り組むJGAP認証スタチと「まめのくぼ」で栽培したトウガラシを使用した「すだち胡椒」が「とくしま特選ブランド」に認定された。



「まめのくぼ」全景



神山小麦の収穫



6次産業化への試み 商品開発

〒771-3311 名西郡神山町神領字北 399
088-676-0029

地方
奨励賞とくしまけんりつなかこうとうがっこう ちいきけんきゅうどうこうかい
徳島県立那賀高等学校 地域探究同好会

地域をつなぐ小さな力 ～内発的発展力を高めるために～

概 要

- 生産者の減少により放置されたゆず畑の整備を、地域の協力者と共に継続的に実施。収穫したゆずや果皮などを活用し、地元企業と連携し「ゆずコンフィ」を開発。商品化した「ゆずコンフィ」は食育推進全国大会やマルシェで販売。
- ヤマザクラの植樹や那賀川源流域の水源地を守る活動などを通じた自然環境の保全。郷土食づくりや伝統技術「太布織」研修を通じた地域文化の継承にも取り組む。
- 徳島大学地域実践研究会“NOROSHI”との連携による、地方創生を目指した活動を展開。



放置されたゆず畑での収穫



「ゆずコンフィ」の販売



ヤマザクラの植樹プロジェクトに参加

成 果

- 放置ゆず畑の整備が進み、地域の環境改善と協力体制の強化に貢献。
- 環境保全活動により水源地の保護や地域の自然環境の維持に寄与。地域文化の継承活動を通じて、住民との交流や伝統技術の継続が実現。
- 大学との連携により、若者の地域活動参加が促進され、イベントでの協働を通じて実践的な学びの場が拡充。

〒771-5209 那賀郡那賀町小仁宇字大坪179番地の1
0884-62-1151

関連情報はこちら ▶

かぶしきがいしゃしこく みぎしたき かいしゃ
株式会社四国の右下木の会社

里山から世界へー 樵木（こりき）林業が紡ぐ、循環と共生の未来モデル

概 要

- 伝統的な樵木林業を現代の技術と融合させることで、持続可能な「100年の産業」と「100年の森林づくり」の両立を目指し活動。
- ウバメガシを短期間で伐採し萌芽更新を促す、循環型の広葉樹林業を実践し、高品質な「樵木備長炭」などの製品を製造・販売することで、新たな収益を生み出し、その収益を森林の管理・再生に再投資するサイクルを確立。
- 製炭師の経験や感覚への依存が高い製炭工程を、IoTによる炭窯温度の可視化で、新規参入・技術継承しやすい体制づくりを構築。

成 果

- IoTによる製炭温度の可視化により、新規参入・技術継承しやすい体制づくりとともに、高品質で安定的な生産を実現。高度な技術と環境への配慮が評価され、国産備長炭の品不足を背景に、ブランド化された「樵木備長炭」を全国の有名飲食店やミシュラン店に供給。また、JETROと連携しヨーロッパ市場への輸出にも挑戦中。
- 製炭量は令和5年度に総量5トンから令和7年度（見込み）60トン、売上げは300万円から2,900万円、従業員数は5名から員14人に急増。
- 令和7年に樵木林業が日本農業遺産に認定され、地域では里山経済の再生や移住者の増加といった動きも進んでいる。



樵木林業の技法で薪炭林を伐採



IoTを導入した「樵木備長炭」



ウバメガシの再生・若返り

〒779-2305 海部郡美波町奥河内字弁才天54-5
0884-70-1779 info@treecompany.jp

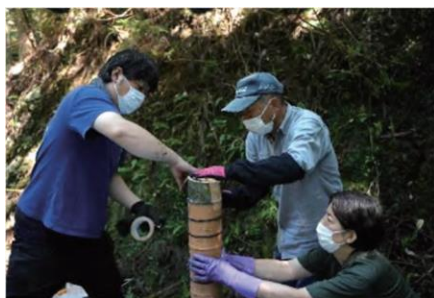
関連情報はこちら ▶



とくていひえいりかつどうほうじん あかまつえんかほぞんかい
特定非営利活動法人 赤松煙火保存会
 できたん、どしたん、吹筒花火

概要

- 徳島県南部の中山間地域に位置する美波町赤松地区（約200戸）は、過疎化、高齢化、人口減少が進行。このため、約200年続く伝統の吹筒花火の製造技法の衰退や神社への奉納ができなくなることが危惧されていた。
- 平成7年、赤松地区有志により「赤松煙火保存会」を設立し、その後、持続可能な組織とするため平成25年「特定非営利活動法人赤松煙火保存会」を設立。
- 令和4年、徳島県指定無形民俗文化財に指定。



吹筒を藁縄で化粧する作業



奉納吹筒花火の模様



「できたんどしたん」の掛け声とともに

成果

- 地域住民による手造り吹筒花火の製作は、共同の作業を通じて、住民相互のコミュニケーションの促進、地域の活性化につながっている。
- さらに活力ある村づくりとするため、「赤松地区農村RMO推進協議会」に参加。
- 令和5年から「全国花火師競技大会にし阿波の花火」に参加し、で伝統の吹筒花火を披露。伝統文化を広く発信することで、地域の活性化に寄与。

〒779-2301 海部郡美波町赤松字総屋敷146-1

かわうちかぶしきがいしゃ
はーとふる川内株式会社
 障がいと共に農業で働いて元気になる

概要

- 大塚製菓株式会社の特例子会社として、障がい者雇用農園を設立し、ハウストマトの生産・販売を行う。
- 地域の障がい者就労支援センターとドライトマトを開発し、農福連携・6次産業化を実現。
- とくしま安²農産物（安²GAP）認証を取得し、安全な職場整備と安心・安全なトマトを提供。障害者雇用優良中小事業主認定（もにす認定）、ノウフクJASを取得し、全国的な農福連携の啓発を推進。



農園で働く社員：職業人として成長



ドライトマト：障がい者就労支援センターと協働



はーとふるトマト

成果

- 障がい特性に応じた支援や指導を行い、障がい者就農人数は、平成26年度3名（知的障がい者）から、令和6年度8名（知的障がい者5名、精神障がい者3名）まで増加。
- ドライトマトの販売拡大により、6次産業化を更に推進。本年度からトマト（青果）を阿波市のふるさと納税返礼品に登録。
- 障がい者雇用に関わるロールモデルとしてセミナーや見学会等を積極的に行い、各職域での障がい者雇用を推進。

〒771-0283 板野郡北島町高房字居内1-1
088-678-5276

関連情報はこちら ▶



け か さいせい

家賀再生プロジェクト

桃源郷からの贈り物～未来へ紡ぐ家賀の藍～

概要

- 世界農業遺産の「にし阿波の傾斜地農耕システム」でカヤ、落葉などを活用し藍を栽培。食用としてパウダー化した藍粉を活用した商品を開発、販売。
- 令和4年にリース法人による農業参入支援として開設した「SAWAファーム」や貸し農地で世界農業遺産の農法を実施。
- 中高生の修学旅行や農業体験の受入れを行う。また、家賀再生プロジェクトと地元住民、支援団体が協働して宿泊施設「家賀の郷 清笹」を活用し、新たな客層を対象にツアー等を開催。



家賀の藍畑は、農薬・化学肥料不使用



SAWAファーム ※ANA・SB食品参入



採草地の維持管理 ※コエグロ

成果

- 「にし阿波の傾斜地農耕システム」はSDGsの取組に貢献し、カーボンニュートラル達成の手段として評価されており、多くの企業や団体、学識者が訪れ、プロジェクトを立ち上げた平成30年から農業体験、ツアー受入れ人数は年々増加。
- 藍の収穫量も年々増加。食用を始めとした様々な商品の開発・販売や農福連携の取組も進めており、関係人口の増加、地域の活性化につなげている。

〒779-4101 美馬郡つるぎ町貞光字大須賀44-8
090-5144-4896 shinca@movie.ocn.ne.jp